

国際地理 オリンピックに ようこそ！

International
Geography
Olympiad 2013

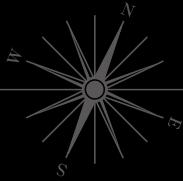
科学地理オリンピック日本選手権2013
兼 第10回国際地理オリンピック選抜大会

<http://japan-igeo.com/>



©AFLO

国際地理オリンピックは 「地理力」を競う



「国際地理オリンピック」は
3つの種目で競います。

*科学地理オリンピック日本選手権は、マルチメディアテスト(第1次選抜)と記述式テスト(第2次選抜)の2つの種目。

記述式テスト

さまざまな地域の現象や課題についての問い合わせに、地形図や主題図、景観を写した写真などの資料を手掛かりに答えます。答えを導き出す過程も採点の対象となります。

マルチメディアテスト

地図、写真、グラフなどを使って、そこで表されている地理的な現象や課題を読み取るテストで、解答は4つの選択肢から選ぶ客観式テストです。

フィールドワークテスト

指定された地域のコースを歩きながら観察します。いくつかのチェックポイントをまわり説明を受けます。競技者は観察したことや見える範囲の景観などから自ら問題を予想しながらメモをとり歩きます。野外での観察のあと、フィールドで観察したことをもとにした問い合わせに答えます。問い合わせが求めていることを的確に表すことが求められます。

地理オリンピックの歴史

地理オリンピックのルーツは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」がルーツです。地理学を学ぶ学生が国の垣根を超えて集まり、共同で問題を作成して地理教育の未来を語り合いました。

1994年に行われたIGU(国際地理学連合)の総会(プラハ:チェコ)で、オランダとポーランドの委員が「国際地理オリンピック」を提案しました。それ以降、9回の世界大会と3回の地域大会が行われました。そして2013年には、京都で国際地理オリンピック iGeo 2013 Kyoto が行われます。

国際地理オリンピック(世界大会)

- 第1回大会 1996年 ハーグ:オランダ
- 第2回大会 1998年 リスボン:ポルトガル
- 第3回大会 2000年 ソウル:韓国
- 第4回大会 2002年 ダーバン:南アフリカ共和国
- 第5回大会 2004年 グデニヤ:ポーランド
- 第6回大会 2006年 ブリズベン:オーストラリア
- 第7回大会 2008年 カルタゴ:チュニジア
- 第8回大会 2010年 タイペイ:台湾
- 第9回大会 2012年 ケルン:ドイツ

地域地理オリンピック(地域大会)

- 第1回大会 2007年 シンチュー:台湾
- 第2回大会 2009年 つくば:日本
- 第3回大会 2011年 メリダ:メキシコ

「地理オリンピック」の共通言語は英語です。国際地理オリンピック(世界大会)ではすべて英語での出題と解答が求められます(辞書の持ち込みは可)。そのため、科学地理オリンピック日本選手権でも全体の2割の問題は英語による出題・解答です。英語による解答は、上手な文章でなくても、論理的に正しく的確に表現することが大切です。非英語圏の国々からも、多くのメダル受賞者が出ています。

「地理オリンピック」の世界大会や地域大会では、さまざまな国の中学生や先生と交流することも目的とするところです。世界には、「地理」を理科の科目のひとつとして学んでいる国もあれば、地理と歴史が補完的な関係を持ち同じ先生が地理と歴史を教える国もあります。さまざまな国・地域から集う学生や先生と交流し、お互いの国の文化、教育などについてさまざまな相違点を共有し合うことは地理オリンピックの大切な役割です。

科学地理オリンピック
日本選手権 兼
国際地理オリンピック
iGeo 選抜大会

第1次選抜:マルチメディアテスト

上位およそ100位まで

第2次選抜:記述式テスト

金 銀 銅 メダル授与

金メダル受賞者から日本代表として4名を選抜、強化合宿を行う

国際地理オリンピック
iGeo

1. 記述式テスト
2. マルチメディアテスト
3. フィールドワークテスト

文化交流

金 銀 銅 メダル授与

募集要項

参加資格

2012年4月以降、大学およびそれに相当する教育機関で教育を受けていない19歳未満の者。ただし、世界大会の出場選手（4名）は、2013年6月末の時点で16歳～19歳の者から選抜されます。

選抜について

■第1次選抜 2013年1月12日（土）

会場：札幌、函館、仙台、新潟、水戸、東京、沼津、名古屋、富山、大阪、岡山、福山、広島、浜田、福岡、久留米、大分、鹿児島、那覇などを予定。

なお、応募状況等により、会場を変更することがあります。最新の情報を国際地理オリンピック日本委員会のホームページ（<http://japan-igeo.com/>）で確認してください。また、担当の先生が責任を持って試験会場を提供し、試験を実施していただける場合は、特例的に試験会場を設置する場合があります。もし、ご希望がある場合には、科学オリンピック共通事務局（TEL: 042-646-6220、E-mail: info@contest-kyotsu.com）にご連絡ください。申請を検討の上、主催者が決定します。

内容：マルチメディアテスト

〈スライドで提示する地図・図表・写真などをつかった問題に答える客観式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は60分。

選考：テストの成績上位約100名が第2次選抜に進む。テストの結果は、後日、個人宛てに郵送。

■第2次選抜 2013年3月10日（日）

会場：東京、大阪などを予定。

なお、第2次選抜受験者の居住地を考慮して会場を指定します。

内容：記述式テスト

〈地図・資料などの読み解きを中心にした記述式テスト〉問題の約2割は英語による出題で辞書の持ち込みは紙媒体のみ可能。解答時間は120分。

選考：成績優秀者を表彰し、金、銀、銅メダルを授与します。

金メダルを授与された者から4名を、2013年7月30日～8月5日に京都で開催予定の国際地理オリンピック iGeo 2013 Kyoto に日本代表選手として派遣します。

問題について

過去の問題は、国際地理オリンピック日本委員会のホームページ（<http://japan-igeo.com/>）で閲覧することができます。

なお、2010年までは、第1次、第2次選抜の区別ではなく、マルチメディアテストと記述式テストを同日に行っていました。

参加申込みについて

申込期間：2012年10月1日（月）～12月15日（土）

WEBエントリーは12月15日24:00まで、郵送は12月15日消印有効

申込み方法：郵送またはWEBエントリー

参加申込書を郵送する方法と、申込み専用ページからWEBエントリーする方法があります。どちらの申込み方法でも、個人で申し込む「個人申込み」と学校ごとに団体で申し込む「学校申込み」が選べます。なお、応募にあたっては保護者の同意が必要です。WEBエントリーでは保護者同意欄にチェックを、郵送の場合は保護者の捺印を、それぞれ忘れないようにお願いします。

「個人申込み」

申込み専用ページからWEBエントリーするか、本募集要項に添付された参加申込書に必要事項を記入して下記の郵送申込書送付先に郵送してください。

「学校申込み」

在籍校の担当の先生に相談してください。

〈お問い合わせ〉担当の先生へ：郵送申込みとWEBエントリーが可能です。郵送申込みの場合、参加希望生徒全員に、本募集要項に同封された「申込書」の①を記入させ、さらに、先生が別の申込書に②をご記入ください。それらをまとめ、人数分の個人参加申込書を同封して、郵送申込書送付先にお送りください。

大会参加費等について

大会参加費は無料です。

ただし、会場までの交通費等は参加者の負担となります。

国際地理オリンピックは大学のAO入試・推薦入試等の特別入試の対象です

科学地理オリンピックで日本代表として選抜された者あるいは日本国内で行われる代表者選考等で一定の成績を収めた者を対象として、筑波大学・東北大学・駒澤大学では、特別入試の対象となっています。

WEB申込み専用ホームページ
<https://www.contest-kyotsu.com>

参加申込みに関するお問い合わせは  科学オリンピック共通事務局へ！

TEL 042-646-6220(平日12:00～13:00／17:00～19:00) E-mail info@contest-kyotsu.com

郵送申込書送付先

〒192-0081 東京都八王子市横山町10-2 八王子SIAビル2F (株)教育ソフトウェア内
科学オリンピック共通事務局 宛て

→ 個人情報の取り扱いについて →

「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」は、国際地理オリンピック日本委員会（以下、「主催者」という。）が主催しています。ご提供いただいた個人情報は、次のように取り扱います。参加申込される方およびその保護者は、以下の内容について同意した上で申し込みください。

1.個人情報の収集目的について

・「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」においては、参加申込みに際して提供された参加申込者本人およびその保護者に関する個人情報ならびに「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の各段階において記録・撮影される写真等は主催者に登録され、主催者が本事業の円滑な運営を遂行するために使用するとともに、本事業に関連する各種広報のために利用させていただきます。

2.個人情報の第三者への提供・預託について

・ご提供いただいた個人情報は、「科学地理オリンピック

日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の実施運営のため、管理されます。提供するにあたっては、主催者は個人情報の適切な管理を実施いたします。

・ご提供いただいた個人情報の一部を、参加申込者の受験される第1次選抜の会場に対して、第1次選抜当日の出欠確認のために必要な範囲内で一時的に提供し、使用後返却回収します。

3.個人情報の業務委託について

・主催者は「科学地理オリンピック日本選手権兼国際地理オリンピック選抜大会」の申込受付業務および受験業務の一部を株式会社教育ソフトウェアに業務委託しております。

4.個人情報のご提供の任意性について

個人情報のご提供は任意ではありませんが、必要な情報がご提供いただけない場合は、上記利用目的の遂行に支障が生じる可能性がありますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

5.個人情報の管理者について

ご提供いただいた個人情報は以下の者が適正に管理いたします。

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

実行委員長 井田 仁康

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会

事務局長 生田 清人

6.個人情報に関するお問い合わせについて

ご提供いただいた個人情報に関して、開示、および開示の結果、当該情報が誤っている場合に訂正または削除のお申し出をいただいた場合には、速やかに対応させていただきますので、下記のE-mailまでご連絡ください。

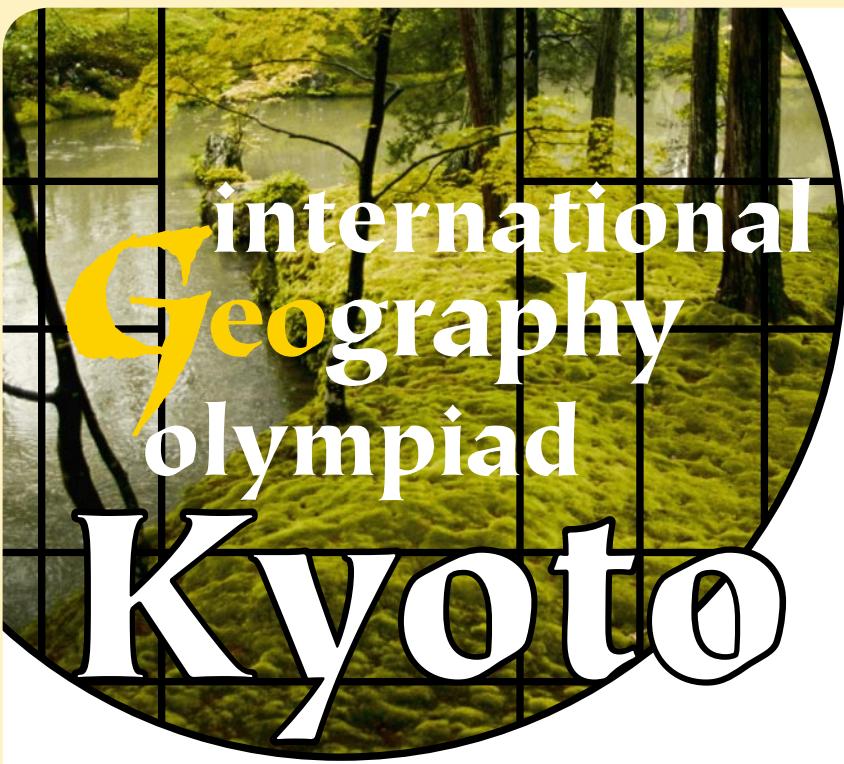
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

公益社団法人 日本地理学会 事務局気付

国際地理オリンピック日本委員会実行委員会 事務局

E-mail geolympiad@aig.or.jp



第10回

国際地理オリンピック
この機会に「地理」を通じた国際交流を



第10回

国際地理オリンピック iGeo2013Kyoto

会期 2013年7月30日(火)～8月5日(月)

会場 京都市およびその周辺

— iGeo2013Kyotoを目指す方への —
OBからのアドバイス

鈴木太郎さん

私立多治見西高校卒業 神戸大学理学部生物学科

iGeo 2010 Taipei
(2010年に台湾の台北で行われた世界大会に派遣されました)

オリンピックでのテストの出来は散々でしたが、世界から集まった代表たちと交流できる時間が多く楽しく過ごすことができました。それぞれの国・地域の「お国柄」や学問に対する姿勢、好きなことや将来の夢などさまざまことを語った記憶は今でも鮮明です。地理オリンピックに参加していくなければ友人になることは決してなかった世界中の学生たちと過ごせた1週間は、とても濃密で価値のあるものだったと思います。余談ですが、テストはもちろん、さまざまな場面で英語を使わざるを得ない状況だったため、地理オリンピックを通じて英語力は格段につきました。

国内選抜では、「地理」の資料集の内容をひどり読み地図の上で理解して準備しました。また、世界大会では、英語で対応できるように、英単語を覚えたり、英作文を練習したりして準備しました。

「地理学」という学問は、総合的な学問です。地理学以外の学問でも、地理的な視点が役に立つことはいろいろあります。将来、地理学を専攻しようと思っている人もそうでない人も、自分の力試しのつもりで受けてみてください!

記述式テスト



記述式テストの問題配布



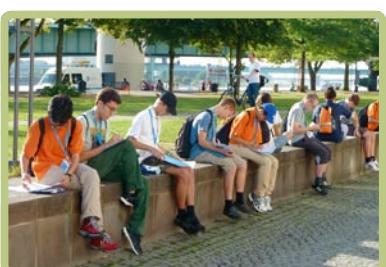
フィールドワークテスト



フィールドワーク直前の説明



フィールドワークの様子

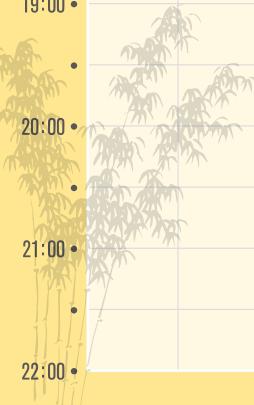


フィールドワークの様子

【日程表】



0 Tue July 30	1 Wed July 31	2 Thu Aug 1	3 Fri Aug 2	4 Sat Aug 3	5 Sun Aug 4	6 Mon Aug 5
7:00						7:00
8:00	朝食 🍴	朝食 🍴	朝食 🍴	朝食 🍴	朝食 🍴	朝食 🍴
9:00	自由時間 ☕	フィールドワーク コースへ移動 🚌				京都国際会館へ 移動 🚌
10:00		フィールドワーク テスト 2 🎒	東映太秦映画村 & 京都市 訪問			IGU カンファレンスにて 金メダリストの表彰
11:00	開会式 & 歓迎会	フィールドワーク テスト 1 🎒				
12:00	昼食 🍴	現地にて昼食 (お弁当) 🍴	昼食 🍴	現地にて昼食 (お弁当) 🍴		出発
13:00						オプショナル ツアー
14:00	到着	自由時間 ☕	自由時間 ☕			
15:00	選手登録 📝	ホテルへ 移動 🚌	マルチメディア テスト 💡			
16:00	記述式 テスト 📝	フィールドワーク 説明 2 🎒		自由時間		
17:00		資料読解 & フリー ディスカッション	自由時間 ☕	スポーツ 🏃		
18:00				自由時間		
19:00		夕食 🍴	夕食 🍴			
20:00	フィールドワーク 説明 1 🎒		文化祭 1 & 夕食 🍴	文化祭 2 & 夕食 🍴	表彰式 & 送別会 🍴	
21:00						
22:00						





2012年8月にドイツ、ケルンで行われました／

第9回

国際地理オリンピック iGeo2012Cologne



iGeo看板と4人の日本代表選手

—ケルン大会の日本代表生徒と引率教員のレポート—

33カ国128名の代表選手が参加した今回の第9回国際地理オリンピックは、過去最大の規模で行われました。日本代表選手4人も様々な国の代表選手と交流して情報交換・共有することができ、貴重な体験と多くの経験を積むことができたと思います。今回、銅メダル受賞者が1人出て嬉しい思う反面世界のレベルの高さを、日本代表選手とともに実感しました。この大会を通じて代表選手の皆さんには、新たな価値観や多面的な見方や考え方方が身につき、国際的な地理的能力だけでなく英語によるコミュニケーション能力を伸ばすことができたと感じています。この大会で得た経験をいかしてもらい、代表選手の今後の活躍を期待しています。

日本代表引率教員：森田浩司 大阪府立大手前高等学校



直前現地合宿での選手強化

記述式テストの様子

ドイツのケルンで開催された2012年の国際地理オリンピックは、銀メダルと0.1点の僅差で銅メダル1つを獲得した。チームリーダーとして激戦と共に戦い抜いた立場からすれば、地理学の応用や環境教育が盛んな欧米都市を舞台にしての戦果は、大健闘であると高く評価している。しかし我われは、日本の地理・地理学教育の脆弱さが露呈されたようにも感じた。国際舞台の地理では「記憶の引き出しにある題材の応用、社会への貢献」が期待されている。その社会貢献は、現代社会を取り巻く自然環境や地球国家への貢献である。私は、そうした世界市民になりたい諸君に少しでも多く集まらせてほしい。それが日本のプレゼンス(存在感)を向上させる道となる。

日本代表引率教員：香川貴志 京都教育大学

今回の世界大会を終えて、世界水準の高さを身に染みて体感しました。とくに非英語圏選手たちの英語運用能力の高さ、論理的思考の点で、自分とのギャップを痛感するとともに、彼らと将来的に国際社会で競争することを思うと、自分の甘さに危機感さえ覚えました。国際交流の点では、自国の歴史・文化・経済情勢などを英語で伝え合って、楽しみながら友好関係を深めることができました。結果、この世界大会を通じて得た収穫は、想像していた以上に大きなものでした。国際舞台で自分を見つめ直し、自分の立ち位置を認識し、今後の自分は何をすべきかが見えてきました。こうした経験ができる地理オリンピックに、皆さんも参加してみませんか。

日本代表生徒：太田龍生 広島大学附属福山高等学校3年

日本全国の地理好きな高校生の皆さん、その思いは私に負けず劣らず強いと思います。ですが皆さんには、本当の地理の凄さを知らないでしょう。なぜなら、日本で学習する地理と世界との間には大きな隔たりがあるからです。日本ではあまり評価されていない地理は、その真価をいかんなく発揮し地域を新しくする中核となっています。机に向かうだけではない地理本来の姿を、ぜひ自分の目で確認してください。世界大会で問われるのは、地理のみならず、共通語としての英語もふくれます。各国選手とのコミュニケーションは英語です。ここで得られる経験は、かけがえのないものとなります。皆さん、ぜひチャレンジしてみてください。

日本代表生徒：伊藤健太 群馬県立中央中等教育学校6年

「まさかこんなに楽しいとは。」試験会場が遠かったため受験をするかどうか迷ったが、力試しのつもりでやってみたら思いがけず代表に選抜され、貴重な経験をさせていただいた。何より良かったのは世界のさまざまな国・地域から集まった選手と共同生活を通じて仲良くなれたことだ。今まで名前しか知らなかつた国が一気に立体的になった。こんな経験は言うまでもなく人生の中でも滅多にできない。最終的には僅差で銀メダルを逃し悔しい思いもしたが、それをはるかに超える楽しい経験になった。受験を迷っている人がいたら、ぜひ受験することをおすすめします。

日本代表生徒：加藤規新 奈良女子大学附属中等教育学校6年



フィールドワークの様子

台湾代表選手たちとともに

大会初日には全体の流れや細かいまりをあまり理解していないかったが、引率の先生方や大会本部のスタッフなど多くの方々が選手たちに最大限の協力をしてくれたり、とても動きやすかった。試験全体を通じて感じたことは、大会やフィールドワークをこなす体力や意思決定力など「地理」はもとより人間としての総合力を試されたことである。ふだん座学に終始している私にはとても刺激的な1週間であった。自分自身の試験結果を振り返ったり各国選手と互いに信頼し率直な意見交換しあったりしたことが、今後の自分自身の生活をより幅広い視点で見直し、今後の人生の糧にするとできると確信している。

日本代表生徒：吉重元 筑波大学附属駒場高等学校2年